



横川東小だより

第14号

令和7年 2月 5日

発行責任者 神山直樹



将来の夢に向かって～6年 宮っ子「夢」教室～



先週1月28日（火）の午後に、教育施設や企業、福祉や医療、技術職などに従事されている皆様方を講師にお招きし、6年生が宮っ子「夢」教室を開催しました。

グループごとに11のブースの中から選び、それぞれの仕事の概要や必要な資格、やりがいなどについて、写真や映像、道具の紹介、さらにちょっとした体験活動などを通して、丁寧に教えていただきました。

＜幼稚園教諭 倭文さん＞



＜パティシエ 田中さん＞



＜消防士 杉山さん＞



＜警察官 遠藤さん＞



＜自動車整備士 宮本さん＞



＜薬剤師 愛知さん＞



＜看護師 戸田さん＞



＜科学研究者 岩永さん＞



＜映像クリエイター 平塚さん＞



＜漫画・イラスト 関本さん＞



＜保育士 松井さん＞



中学校進学を控えた6年生にとって、将来の夢に向かって、希望を膨らませる素敵な時間となりました。講師をお務めいただきました皆様には、大変お忙しい中、快くご協力いただき、心より感謝申し上げます。



少し前になりますが、1月22日（水）のロング昼休みに、日頃お世話になっている皆様をご招待し、児童会主催の「感謝の集い」を開催しました。



コロナ禍を経て、久しぶりの本格的な開催ということで、冬休み前から、運営委員の児童を中心に少しずつ準備を進めてきました。当日は、5・6年生は体育館で、1～4年生は教室での参加となりました。ご来校くださった皆様お一人お一人からのご挨拶、そして感謝の気持ちいっぱいの代



表児童からの挨拶、さらに感謝の手紙とお花の贈呈、全校生による歌のプレゼントと、「ありがとう」の思いがあふれる素敵な会でした。

この場をお借りしまして、いつも本校の子供たちのために、お力添えいただいております皆様に心より感謝申し上げます。引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

㊦「垂直的」から「水平的」な教育へ㊦

「個別最適な学び」と「協働的な学び」。耳にされたことはございますか？

「個別最適な学び」とは、子供が自分の特性や興味・関心に応じて、自ら学習を進めることです。併せて、一人だけの孤独な学びにならないよう、友達と話し合い、助け合って問題を解決することが「協働的な学び」です。

今、日本全国の学校において、この「個別最適な学び」と「協働的な学び」が進められていますが、これを確実に具現化するためには、次の2点が必要不可欠であると私は思っております。

ア 教師と子供たちが、日常的に対話し、何気ない会話やおしゃべり、様々な関わりを重ねながら信頼関係を築くこと。

イ 子供は「問いのかたまり」という認識に立ち、一人一人の可能性を信じて待つこと。

昭和から平成の前半にかけて一般的であった、いわゆる知識偏重、詰め込み型の学習＝知識を持つ者が持たない者に教えるという「垂直的」な教育観から、一人一人が問いを立て、考え、協力して学び合う「水平的」な教育観への転換が今求められているところです。

まずは、私たち教員が「自身が最大の教育環境である」との自覚をもち、子供たちの学びの伴走者となるよう、これからも学校全体で、授業研究や指導方法の工夫改善等に努めていきたいと思います。



1月14日（水）の研究授業の様子（3年4組・6年2組における算数の授業）